

平成16年度病害虫発生予察 予報第3号

平成16年6月15日
長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【気象（平成16年6月11日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、期間のはじめは晴れの日が多いでしょう。その後は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並か多いでしょう。

週別の気温は1週目は平年並か高く、2週目は高く、3～4週目は平年並か高いでしょう。

要素別確率 単位（％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	10	40	50
降水量	30	40	30
日照時間	20	40	40

* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病（葉いもち） 紋枯病	並 並	並 やや多
水稲共通	ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ 萎縮病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	並 並 やや多 並 並 並 並	やや多 やや多 やや多 並 並 並 並
いちご	うどんこ病	やや少	やや少

	炭疽病	やや多	やや多
ツツジ	褐斑病 ツツジグンバイ	やや少 並	やや少 やや多
かんきつ	かいよう病（防除情報第3号） 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	やや多 並 並 やや多	やや多 並 やや多 やや多
びわ	がんしゅ病 ナシヒメシンクイ	並 やや少	並 並
なし	黒星病	やや少	やや少
ぶどう	べと病	やや少	やや少
果樹共通	カメムシ類（防除情報第4号）	やや多	やや多
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ	やや少 やや少 並 やや少 少	やや少 並 並 並 並

【早期水稲】 ()内は平年値 [以下同じ]

1. いもち病（葉いもち）

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) 6月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった（発生株率0.01%）。
- (2) 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
- (3) BLASTAM（葉いもち感染好適日判定モデル）によると6月1日に芦辺、佐世保、福江、6月8日に松浦、大瀬戸、長崎、福江、口之津、野母崎において感染好適条件が認められた。

3) 防除上注意すべき事項

圃場の見回りに努め、発生を認めたら早急に防除を行う。

2. 紋枯病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

- (1) 6月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
- (2) 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生株率0.1%）。
- (3) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本病の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

薬剤は止葉出葉期から出穂期にかけて株元に十分かかるよう丁寧に散布する。

【水稲共通】

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

1) 予報内容

発生程度 ヒメトビウンカ やや多
縞葉枯病 やや多

2) 予報の根拠

- (1) 6月上旬の巡回調査の結果、早期水稲におけるヒメトビウンカの1株当たり虫数は0.10頭(0.02頭)で発生圃場数は39筆中10筆であった。
- (2) 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるヒメトビウンカの1株当たり虫数は0.06頭(0.05頭)であった。
- (3) 5月中下旬の雑草地及び小麦圃場でのヒメトビウンカ(第1世代)の生息密度は20回すくい取りで9.6頭(11.8頭)、縞葉枯病ウイルスの保毒率は2.0%(0.9%)であった(表1)。
- (4) 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

今後、移植する圃場では箱処理剤を処理する。移植が終わった圃場で箱処理剤を施用していない圃場ではヒメトビウンカの発生に注意する。

表1 ヒメトビウンカ(第1世代)の生息密度と保毒率の推移

年 度	11年	12年	13年	14年	15年	平 年	16年
生息密度(頭)	18.6	11.5	6.9	12.1	9.9	11.8	9.6
保毒率(%)	0.6	0.8	0.6	1.0	0.9	0.9	2.0

注) 生息密度は捕虫網によるすくい取り(20回振り)の虫数
保毒率検定はラテックス凝集反応法による
平年値は平成6~15年の平均値(最高・最低値除く)

2. ツマグロヨコバイと萎縮病

1) 予報内容

発生程度 ツマグロヨコバイ やや多
萎縮病 並

2) 予報の根拠

- (1) 6月上旬の巡回調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの1株当たり虫数は0.1頭(0.1頭)、発生圃場数は39筆中12筆であった。
- (2) 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの1株当たり虫数は3.0頭(1.1頭)であった。
- (3) 5月中下旬の雑草地でのツマグロヨコバイ(第1世代)の生息密度は20回すくい取りで14.8頭(8.7頭)、萎縮病ウイルスの保毒率は0%(0.3%)であった(表2)。
- (4) 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

今後、移植をおこなう圃場では箱処理剤を処理する。移植が終了した圃場でツマグロヨコバイに効果の低い箱処理剤を用いた圃場や箱処理剤を処理しなかった圃場では本虫の発生に注意する。

表2 ツマグロヨコバイ(第1世代)の生息密度の推移

年 度	11年	12年	13年	14年	15年	平 年	16年
生息密度(頭)	10.1	9.6	9.0	9.2	6.4	8.7	14.8
保毒率(%)	0	0.2	-	-	0.2	0.3	0

注) 生息密度は捕虫網によるすくいとり(20回振り)の虫数
保毒率検定はラテックス凝集反応法による
平年値は平成6~15年度の平均値(最高・最低値除く)

3. セジロウンカ、トビイロウンカ

1) 予報内容

発生程度 セジロウンカ 並
トビイロウンカ 並

2) 予報の根拠

- (1) セジロウンカは5月4日に予察灯(諫早市)で初確認した。その後、5月2半旬、5月3~4半旬、5月6半旬にわずかな飛来を認めた。
トビイロウンカの飛来は認めていない。
- (2) 6月上旬の巡回調査の結果、早期水稲におけるセジロウンカの1株当たり虫数は0.07頭(0.10頭)で発生圃場数は39筆中5筆であった。
- (3) 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるセジロウンカの1株当たり虫数は0.26頭(0.50頭)であった。

4. コブノメイガ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) 6月7日に県予察圃場(諫早市、無防除)の早期水稲において若齢幼虫の寄生を確認した。5月6半旬に飛来したと思われる
- (2) 6月上旬の巡回調査の結果、早期水稲において成虫及び幼虫の発生を認めなかった(食害株率0%、10m²当たり成虫数0.03頭)。
- (3) 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲における食害株率は2.0%(発生を認めない)、成虫の発生は認めなかった(10m²当たり虫数0.03頭)。

【いちご】

1. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査の結果、発病株率11.8%(37.3%)、発生圃場数は33筆中20筆であった。

2. 炭疽病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

- (1) 6月上旬の巡回調査の結果、*C. acutatum*(通称:葉枯炭疽病)による発病株率は0.4%(0.2%)で、発生圃場数は33筆中2筆であった。また、*G. cingulata*による発病株率は0.1%(0.1%)で、発生圃場数は33筆中1筆であった。
- (2) 長崎市、大村市、国見町、佐々町担当の防除員によると一部で多発している圃場が見られた。

3) 防除上注意すべき事項

平成16年5月17日付、病虫害発生予察 注意報第3号参照。

【つつじ】

1. 褐斑病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

(1) 6月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は3.9%(6.4%)、発生圃場数は12筆中8筆であった。

2. ツツジグンバイ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 6月上旬の巡回調査の結果、10株当たり寄生虫数は3.5頭(3.3頭)、発生圃場数は12筆中5筆であった。

(2) 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

【かんきつ】

1. かいよう病

平成16年6月15日付け防除情報第3号による。

2. 黒点病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 6月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%)。

(2) 向こう1か月の降水量は、平年並の見込みである。

3. ミカンハダニ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 6月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は7.2%(9.7%)、発生圃場数は39筆中20筆であった。

(2) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

園内のハダニの密度に注意し、寄生葉率30~40%で防除する。

4. チャノキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場における黄色粘着板トラップ調査の結果、誘殺量は平年よりやや多かった。

(2) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 誘殺量の推移を見ると平年より発生のピークが早くなっているので下表の発生ピーク日を中心に薬剤散布による防除を行う(図)。

(2) ただし、発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。

(3) 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる発生ピーク

地区名	多良見	長与	西彼	諫早	大村	佐世保 (宮)	佐世保 (針尾)	国見	北有馬
第3世代	7/1	7/3	7/2	7/2	6/28	7/3	7/1	6/26	7/2

第4世代	7 / 19	7 / 21	7 / 22	7 / 21	7 / 17	7 / 21	7 / 20	7 / 15	7 / 20
------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

注1：発生ピーク日は各地区の選果場がある地点で算出している。

注2：プログラムに使用する気温データには、JPPネット5kmメッシュを利用。

注3：同一地区内でも標高などで発生ピーク日が異なるので注意する。

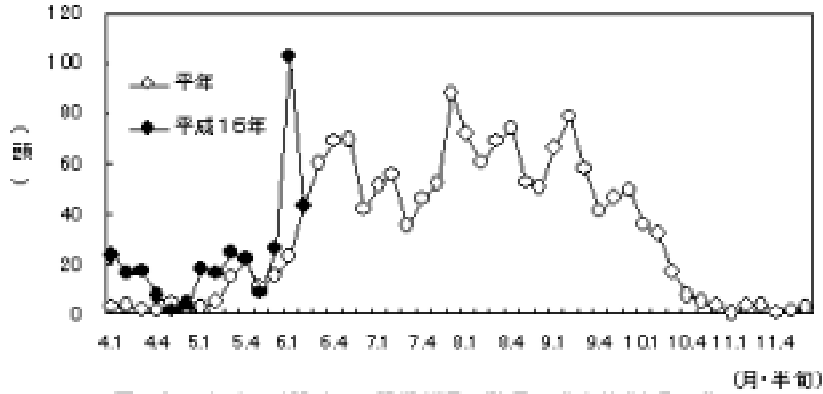


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況（調査：黄色粘着トラップ）
* 平年値は平成6～15年の平均

【びわ】

1. がんしゅ病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査の結果、発病枝葉率は1.8%（1.1%）、発生圃場数は10筆中5筆であった。

2. ナシヒメシンクイ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場におけるフェロモントラップ調査の結果、誘殺量は平年よりやや少なかった(図)。

(2) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

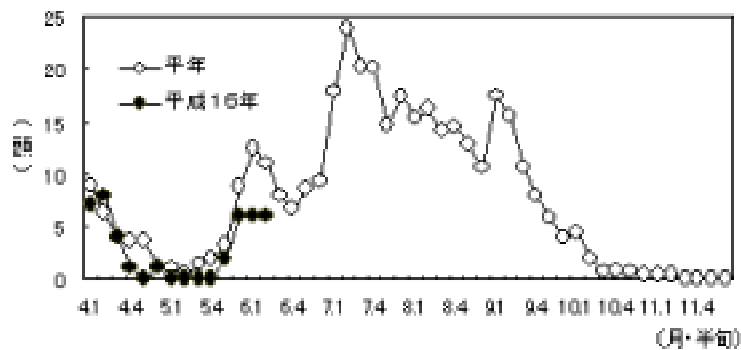


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況（調査：フェロモントラップ）
* 平年値は平成6～15年の平均

【なし】

黒星病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は0.2% (1.2%)、発生圃場数は12筆中3筆であった。

【ぶどう】

べと病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査の結果、発生は認められなかった (発病葉率 0.1%)。

【果樹共通】

果樹カメムシ類

平成16年6月15日付け防除情報第4号による。

【茶】

1. 炭疽病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査の結果、1㎡当たりの病葉数は1.2枚 (3.4枚)、発生圃場数は、20筆中8筆であった。

2. チャノキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) 6月上旬の巡回調査の結果、たたき落とし虫数 (A4版トレイに5回×4カ所) は6.9頭 (16.3頭)、発生圃場数は20筆中13筆であった。
- (2) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

3. チャノココクモンハマキ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) 6月上旬の巡回調査の結果、1㎡あたり巻葉数は0.4枚 (0.1枚)、発生圃場数は20筆中2筆であった。
- (2) フェロモントラップによる誘殺量 (東彼杵町) はやや少なかった (図)。
- (3) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

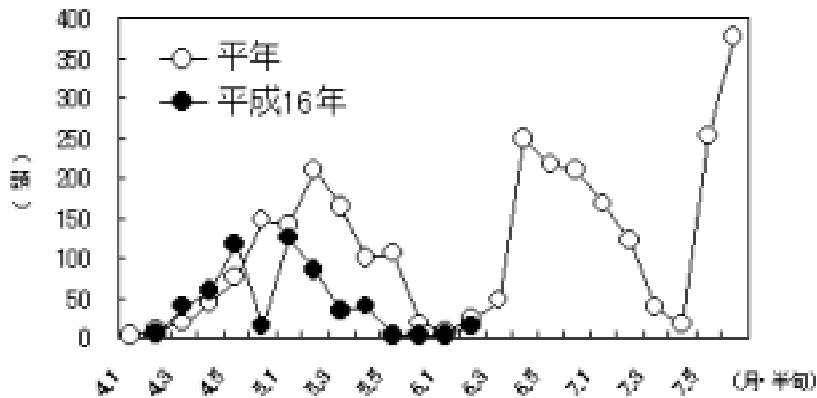


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)
* 平年値は平成7～15年の平均

4. チャノホソガ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) 6月上旬の巡回調査の結果、発生は認められなかった(1㎡あたり巻葉数0.1枚)。
- (2) フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵町)はやや少なかった(図)。
- (3) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

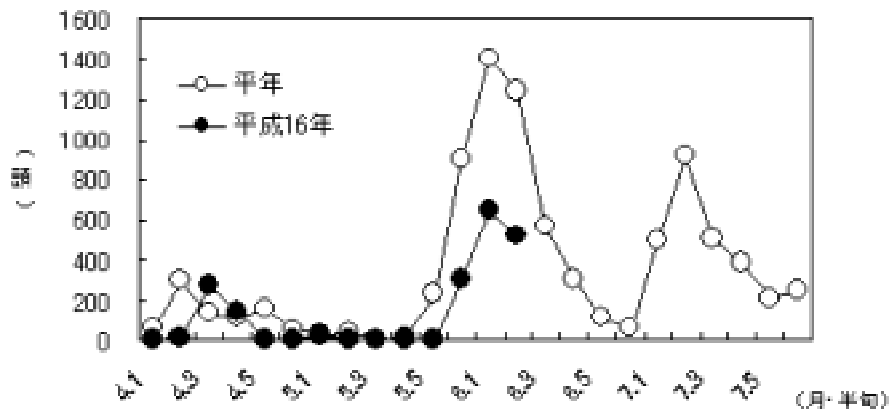


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)
* 平年値は平成7～15年の平均

5. カンザワハダニ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- 1) 6月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は0.1%(3.4%)、発生圃場数は20筆中2筆であった。
- 2) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。